

『非文字資料研究センター News Letter』40号の発刊を記念して

非文字資料研究センター センター長 小熊 誠



「非文字資料研究」のニューズレター第1号が発刊されたのは、2003年10月、今から15年前のことです。そのときは、21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」が始まった年でした。2008年からは非文字資料研究センターが発足して、今日に至っています。この15年間で、40冊のニューズレターが発刊されてきましたが、それを通観すると研究員や研究内容が少しずつ変化しつつも、非文字資料研究が展開していることがわかります。

ニューズレターの第1号で、このプロジェクトの拠点リーダーであった福田アジオ先生は、「私たちの日常生活を考え、その意味を明らかにしようとするときに、文字に頼れないことは明らかである」と述べ、人類文化を研究するには非文字資料研究が重要であることを明らかにされています。この目的をもって、非文字資料研究プロジェクトは4つの研究班で研究が推進されました。それらの研究班が、非文字資料研究センターとなって、どのように継承され、あるいは刷新しているかを垣間見たいと思います。

当時の第1班は、「図像資料の体系化と情報発信」で、課題が3つありました。課題1は『マルチ言語版絵巻物による日本常民生活絵引』の編纂で、これは日本常民文化研究所における『日本常民生活絵引』の成果を国際語で翻訳していこうという非文字資料研究の国際化を目指した研究です。現在も第1班として継続しています。課題2『日本近世・近代生活絵引』の編纂も継続されており、現在第4班として「行列から見る都市生活空間」の研究を行っています。課題3『東アジア生活絵引』の編纂は、途中中断はありましたが、現在第3班として中国江南編のための基礎作業を行っています。その他に、現在は第2班として「絵画・版画・写真に見られる19世紀ヨーロッパの都市生活」が新たに結成されており、研究成果もすでに出版されています。

第2班は、「身体技法および感性の資料化と体系化」でした。芸能などの身体技法や民具の比較研究が行われていましたが、残念ながら現在はその継承は中断しています。

第3班は、「環境と景観の資料化と体系化」で、3つの課題がありました。課題1「景観の時系列的研究」は、現在第7班「中世景観復元学の試み」に継承されています。課題2「環境認識とその変遷の研究」は、「汽水の生活環境史」に継承されましたが、現在中断中です。課題3「環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解説」は、「海外神社跡地のその後」から発展して、現在第6班の「近代沖縄における祭祀再編と神社」に展開しています。また、「中国・朝鮮の旧日本租界」も、現在第5班「東アジア開港場における日本人の諸活動と産業」に展開しています。

第4班の「地域総合情報発信」は、現在第8班「非文字資料研究のコミュニティにおける知識とサービスの効率的な検索と安全安心な流通研究」に展開しています。その他、新しい研究班として第9班「戦時下日本の大衆メディア研究」が立ち上がり、すでに今年の3月に成果報告として『国策紙芝居からみる日本の戦争』を出版社から非文字資料研究叢書1として出版しました。

これら現在の9つの班が研究を進め、その公開研究会報告や研究調査報告がニューズレターを彩っていきます。また、招聘研究員や派遣研究員のレポートも紙面の多くを費やしています。非文字資料研究の若手を育成する活動は、COEプログラムの時代から重要な活動として位置づけられてきました。世界的規模において非文字資料研究のネットワークを形成していくには不可欠な活動で、海外提携研究機関の力強い協力によって今後も継続していきます。

COEプログラムの拠点リーダーであり、非文字資料研究センターの初代センター長であった福田アジオ先生の背中を追って本センターに参加させていただいた小生ですが、その後のセンター長であった田上繁先生と内田青蔵先生の後を継承して、非文字資料研究センターの発展に尽力したいと思います。本センターの発展とともに、よろしくお願いいたします。